

五島市図書館友の会だより

第 20 号(2021.7 月)

図 書 館 と 私

私が初めて利用した図書館は「佐賀県立図書館」でした。その頃住んでいた家が県立図書館まで歩いて行ける距離にあったので、祖母に手を引かれて通っていました。祖母は読書家ではありませんでしたが、本を読むことの大切さや楽しさを知っていたのだろっと思

います。痛い足を引きずりながらよく連れて行ってくれました。

図書館はいつも明るく広々としていて静かでした。

佐賀城跡の中に建てられていたので、車の音などもせず、
周りに楠の大木の木陰がたくさんあるすてきな場所でした。
小学生になっても図書館に行くと気持ちが落ち着き、おも

しろそうな本に出会うとワクワクして借りていました。

色々な偉人伝やドリトル先生シリーズ、大草原の小さな家
シリーズなどに夢中になりました。

しかし中学・高校になると部活動が忙しく県立図書館からは足が遠のきました。再度よく通うようになったのは受験前の数ヶ月です。二階に広い学習スペースがあったので、土日は一人で通いました。図書館は本を借りるだけでなく、読書をしたり勉強したりできる
ところだということを知りました。



大学からは長崎に来たので、大学の図書館や長崎県立図書館、鳴滝高校の図書館を活用しました。そして五島に来てからの約30年間は五島市立図書館にお世話になっています。

住む場所や勤務先が変わるたびに近くの図書館を探し、とにかく行ってみました。私はまだ読んでいない本が手元にないとなんだか落ち着かなくなるのです。「次はこれを読もう。」という本があることで安心できます。図書館はそんな私を支え安心させてくれる大切な場所なのです。また、図書館は日常の喧噪から自分をフッと切り離してくれる場所でもあります。図書館にある本だけでなく、図書館という空間に身を置く気持ちよさも大切だと思います。

こうして振り返ってみると、まだ文字もよく読めない幼い頃から図書館というすてきな場所を私に教え体験させてくれた祖母への感謝の気持ちが湧いてきます。私たちは本を通して知らない世界を知ったり、想像したりして知的欲求を満たすことができるのですから。今日は仏壇に手を合わせ「ばあちゃん、ありがとう。」と言いました。

吉 濱 陽 子（図書館友の会会員）リレーエッセイ 19

アートの広場 展示紹介

図書館ホームページより

令和3年4月～5月

「五島弁カルタ 大島 眞由美原画展」



その時の課題や趣味の書・絵画・俳句など

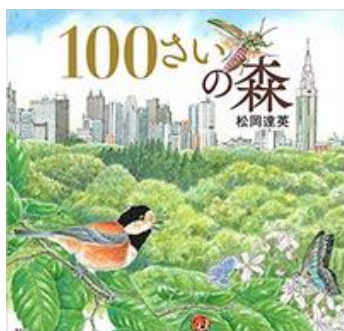
市民の皆様にご協力いただき2ヶ月交替で、

図書館内玄関横に「アートの広場」と題し

図書館友の会が担当し展示をしています。展示をしてくださる方を募集しています。

図書館（72-6900）か役員・市川（090-9723-8793）まで

蘭子さんのおすすめ絵本



その4

絵本は一生の友達です

『百さいの森』松岡 達英著 講談社

最近荒れ果てた田畑を見るにつけて、自然といっても美しい

自然を維持していくには人の力が大切だと思っていました。

でも、この絵本はいい意味でそれを裏切ってくれました。

東京のど真ん中、明治神宮の森は百年前、人の手で作られた人口の森です。

背の高い成木の針葉樹林の杉や松の間に植えられた広葉樹林の幼木。やがて大きくなり、針葉樹林より高くなります。日が当たらなくなった針葉樹は枯れて栄養豊かな森の土となりま

す。沢山の生き物が暮らす森になります。

明治神宮の「神様の森」は人の立ち入りを禁じたにもかかわらず、百年前に描いたように「常緑広葉樹」が主役の原生林のような森になりました。そこには「樹木の競争」を考えて細心の注意を払って植樹し、後は自然の力に任せた百年前の人々の思いがあります。

『絵ときゾウの時間とネズミの時間』本川 達雄著 福音館書店

ゾウとネズミの餌を食べる量と体重の間には、決まった関係があることを解き明かすことから始まる絵本。最後にビックリすることを私たちに教えてくれます。なんと大きい、小さいに関わらず共通したものがあります。それは心臓が十五億回打つとみんな死んでしまうということです。本当にびっくりでした。



図書館友の会会員 武藤 蘭子

皆さんが五島にも欲しいと思われる図書館ってどんな図書館でしょう？

皆様お待ちかねの五島市新図書館は、今年1月の契約候補者の中から梓・むつ設計が選定され今月（7月初旬）より工事が始め

られました。楽しみです。

五島市新図書館整備基本計画書を

のぞいてみると、



① 人々の暮らしに役立つ地域の

情報拠点

② 市民に快適で利用しやすい読書

活動拠点

③ 市民の生涯学習拠点、 (予想図)

などなどどれも理想的な文面で覆い尽くされています。その中で高齢者という文言を検索してみると 17 か所に高齢者という文字を見つけることができます。

- 高齢者も気軽に図書館を訪れ、有意義な時間を過ごせるような施設づくりをめざす。
- 高齢者、障害者といった利用者層に応じたサービスを充実するため、それぞれのニーズに応じた資料の収集を進める
- 高齢者が趣味、娯楽、教養や社会貢献活動などの活動を通して、同世代及び異世代との交流を深め、生きがいつくりと生涯学習を推進する場として図書館を位置づける。
- 高齢者まであらゆる年齢層が利用でき誰もが気軽に近づけ、親しみのもてる明るい雰囲気のものとする。このため建物全体にわたって、段差をなくすなど利用者の障害となるものは避ける。また、館内のスペースにはメリハリを付け、できるだけゆとりのある楽しいものとし、雰囲気や和らげるための配慮や工夫をすることで、効果的なスペースをつくる。等々まだまだたくさん記述されております。

皆さんももう一度建設工事に係る提案書：

https://www.city.goto.nagasaki.jp/s094/010/020/030/010/010/020/012_4_1.pdf

(イラストがいっぱい) を見られることをお勧めします、夢が広がりますよ。

以上書かれていることは設計図ですから、このとおりに建物（ハード面）は進んでいくと思います。

さて現在自主的に行われているボランティア活動を図書館のホームページによると「五島市図書館友の会」（月例会・展示作業・会報発行）・「おはなしもこもこ」（子ども向け絵本の読みかたり）・「子どもの本ネットワーク協議会 五島っ子」（五島市の読書ボランティア 9 団体が集まり、勉強会や講演会開催）・「五島むかしばなしを楽しむ会」（五島・日本・世界の昔話の普及と語りなどの学習）の語りの学習他）など個々の活動（ソフト面）はどれも全国の中小都市にある図書館活動においても決して遜色ない活動をしてきていると思っています。

これからの新しい図書館でのさらなる活動を考えてみました。

多目的スペースでの DVD 鑑賞会・市民講師による雑学講座・図書館サポーターズ（草取り・本の清掃）・図書館まつりをより地域の祭りへと広げていく、こういったことはこれからも続けていきたいと思っています。

図書館建設のある本でこんな文章を見つけました、「図書館は建物が完成して終わりではありません。これまで図書館がなかったわが町に新しく綺麗な図書館ができてよかった、では終わらないのです。図書館は出来上がってからの大事なのです。」



図書館友の会代表 古賀 義和

最近の「友の会」例会に参加された会員さんのご意見（令和3年6月30日）

- ・図書館や公民館・観光歴史資料館などで展示の情報や取組についてもっと連携したらどうだろうか。
- ・若い人がワイワイと楽しく利用できる図書館がほしい。
- ・パソコン等が設置してあり、又利用できる図書館であってほしい。
- ・利用者がどんな本を読みたいかアンケートを取ったらどうだろうか。
- ・車イス、ベビーカー利用の方が気兼ねなく利用できる図書館であってほしい。
- ・「電子図書」についての意見.....が多数あつた。

新館建設ニュース

この7月8日より旧五島病院跡地



定例会のご案内

新聞切り抜きの掲示や、図書整理など簡単な作業をします

第 25 回「読書会」のご案内

9 月 8 日（水）午前 10:00～ 図書館 3 階

編集後記

いよいよ新館建設工事が始まりました。ある会合で現場のフェンスに工事の状況が見られる「のぞき窓」があれば良いな、という意見が出ていました。

友の会設立（2012 年）時より友の会や、子どもの本ボランティアに献身的に活動されていた吉田とみ子さんが今年の 4 月に逝去されました。目が弱かった彼女の願いはただ一つ。

「新図書館に読書拡大機がほしい！」

K・S